

露地野菜の降雹害対策について

令和4年6月10日
本庄農林振興センター

なす

- 1 ほ場の清掃
排水対策を行い、通路に溜まっている水を排水します。
- 2 果実の摘除
新しい枝を出すために着果負担を減らします。そのため、果実を摘除します。
- 3 病害の予防
今後の気温上昇に伴って、灰色かび病や褐色腐敗病の発生が懸念されます。
上記の病害等に登録のある薬剤を散布し、汚れた枝等を洗い流します。
- 4 傷ついた枝の剪定
傷ついた枝の先端からは、新梢は伸びずらいため長い枝は切戻しを行います。
側枝の葉があった所に潜芽があるため各枝に1~2芽残して剪定しましょう。
- 5 株の固定
定植時に設置した支柱が緩んでいたり、なくなっている場合は、風により根元がゆすられることが懸念されます。テープナー等で主枝をしっかりと固定します。
- 6 新葉が展開し草勢の回復が見られたら、速効性肥料で窒素成分2kg/10a程度の追肥を行う。
- 7 改植について
生育の回復まで長期間が予想される場合又は回復の見込みが低い場合は**改植**を行います。
(上記の方法等で管理しても生育が回復するまで2カ月程度かかることがあります。)

ねぎ

- 1 茎葉を損傷した株は10日程度で出葉して回復するので、当面はべと病、黒斑病、疫病を対象とした薬剤散布を行い、追肥等は草勢の回復を見ながら実施する。
- 2 軟腐病や白絹病の発生が予想されたため、ほ場に入れるようになったら、薬剤を株元に散布して予防する。
- 3 一時的な浸水による湿害が心配されるほ場では、排水溝の補修などを行い、速やかな排水対策を講じる。

スイートコーン

- 1 降雹により穂に著しい傷がある。または茎葉が著しく損傷している場合は、その後に生育が回復し出荷できる可能性は低いと考えられます。
- 2 次作までの期間が短い場合は、茎葉等は抜き取りほ場外へ持ち出して処分します。

次作までの期間が十分に確保できる場合は、茎葉が緑色の時期にすき込みましょう。
分解には1カ月以上かかりますので、早めに作業を行いましょう。(緑肥として活用)
- 3 木が枯れてからでは、茎葉の分解に窒素成分が必要となります。(石灰窒素等を施用)